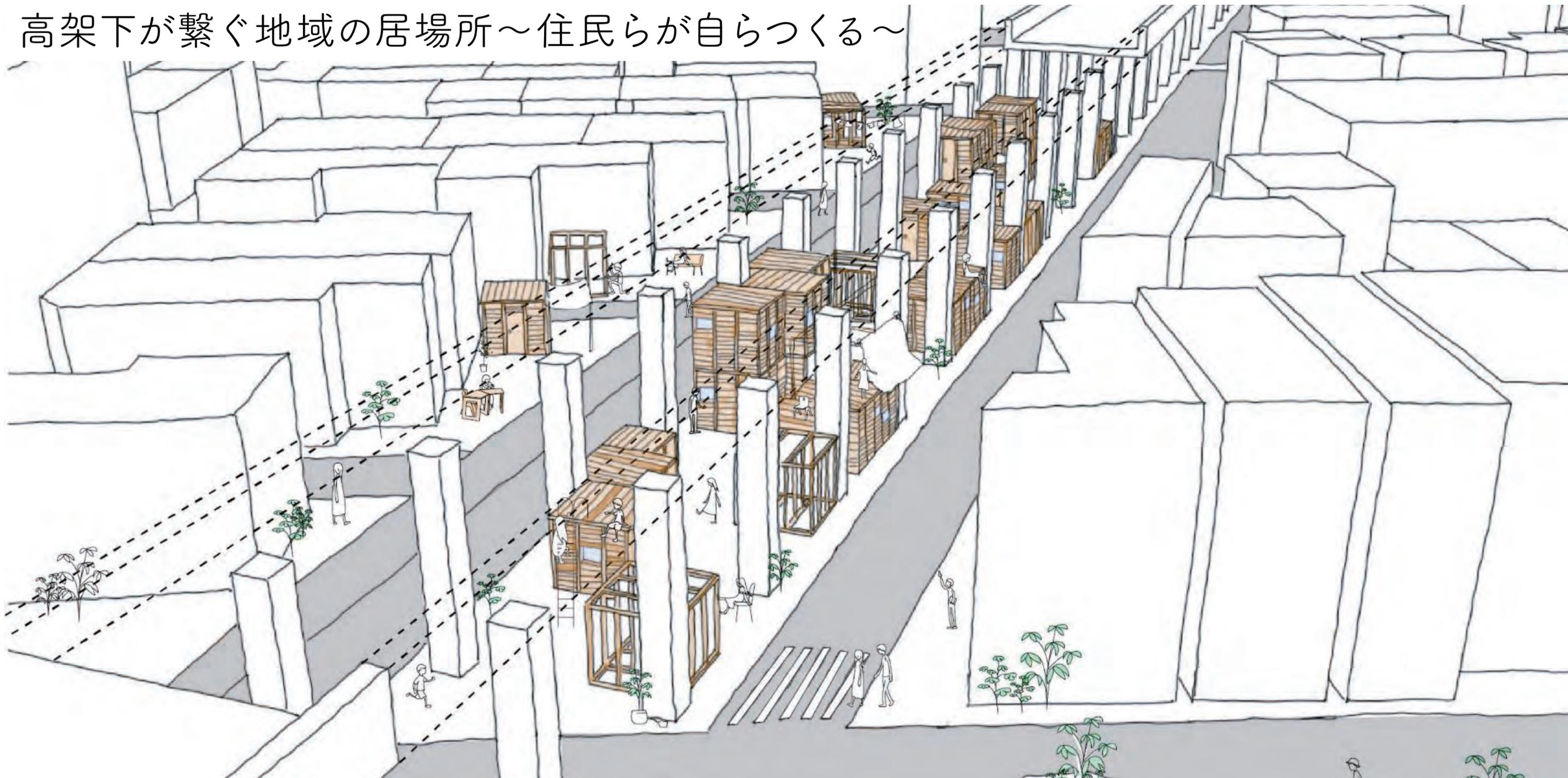


高架下が繋ぐ地域の居場所～住民らが自らつくる～

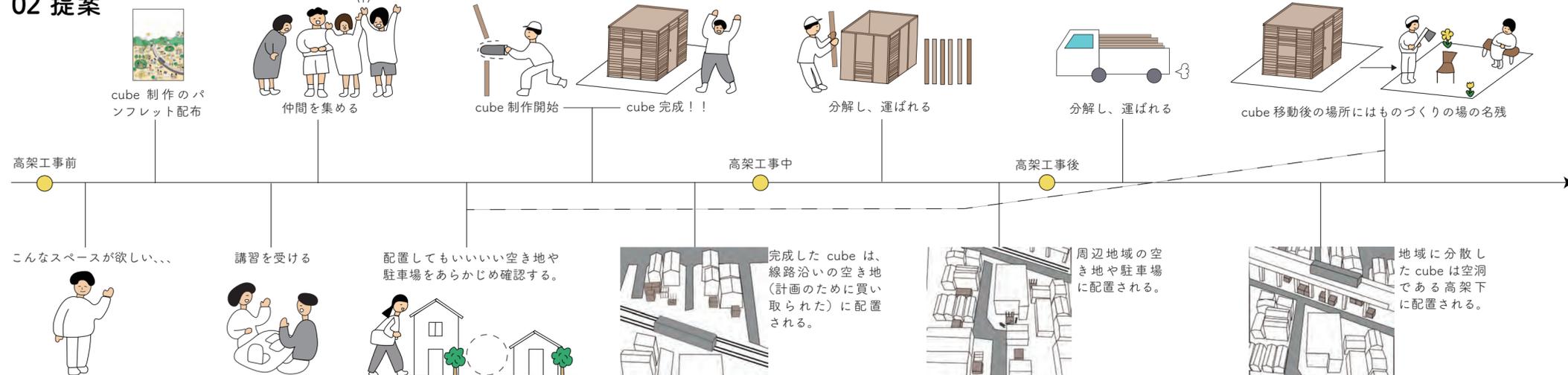


01 研究背景・目的

近年、少子高齢化、地域社会での人間関係の希薄化、様々な社会的背景から公共施設や空き家店舗等を利用した居場所づくりの取り組みが各地で見られる。人と関わられる場や機会を得られる「地域の居場所」が社会資源の1つとして今後期待されている。

現在、電車によって線路に沿った地域は分断されている。それに加え、寝屋川市と枚方市は京阪本線連続立体交差事業により、鉄道が高架化するため、高架下が空洞になる。地域の居場所をつくる事によって分断された周辺住民を繋げ、かつモノを設置することによって場から空間にすることを目的とする。

02 提案



03 計画敷地

京阪本線連続立体交差事業により香里園駅、光善寺駅、枚方公園駅3つの駅が高架される現在の完成予定は令和12年である。約5.5km（寝屋川市域：約2.1km、枚方市域：約3.4km）の高架下とその周辺を含む敷地を、周辺地域の特徴を踏まえて、5つのエリアに分けた。エリア①を親

子・児童・生徒エリア、エリア②を制作エリア、エリア③を多世代交流エリア、エリア④を広場・間伐材乾燥エリア、エリア⑤を①②③④周辺とする。



04 現状

鉄道高架に沿った土地が道路幅の拡大などの影響により、計画のために買い取られ、立ち入り禁止となっている。

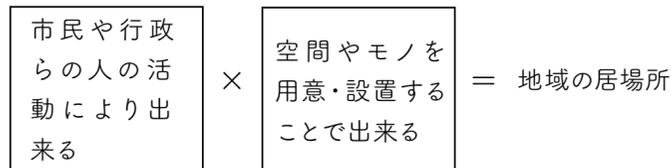


06 間伐材の利用について

本計画では大阪府の間伐材を使用する。大阪府の間伐実施面積は平成18年度以降増加しているが、利用量は20%程であり、利用されていない事が現状である。間伐材は長さ、太さが不揃いだが、板倉工法を使うことで820mmの落とし込み材の高さ寸法の融通が利く。これによりできた地域の居場所をcubeと名付ける。住民の方には制作に必要な講習を行う。（落とし込み材などの木材が朽ちてきたら、新しい木材で更新していく）山林の間伐材から居場所を建築していく。

05 計画方針

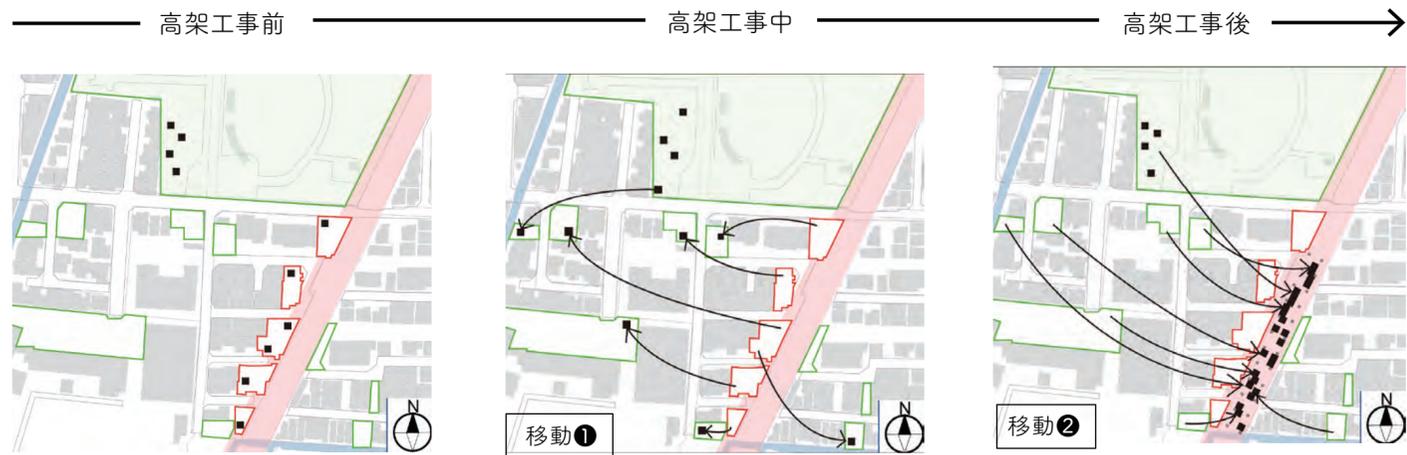
地域の居場所は①市民や行政らの人の活動により出来る地域の居場所と②空間やモノを用意、設置することで出来る地域の居場所とがある。①は住民らの「このような場所が必要なのではないか」などの人の思いからなる地域の居場所である。人の思いからなる地域の居場所は人と人とのつながりが深い。②はモノを用意・設置することで場を空間にする。現在使われていない場を地域の居場所にする可能性を持つ。本計画ではこれら①・②の地域の居場所の特徴を掛け合わせたものを計画する。



09 エリア⑤の cube 移動後の名残

高架工事後に（例：エリア⑤からエリア①への）移動②が行われるが、エリア⑤は地域の工房として、ものづくりの名残をとどめる。Free 木材として cube 制作時の端材を用いたワークショップやテーブル、椅子などの制作や設置が行われる。いつでも、誰でも利用することができる。

07 cubeが地域に分散する

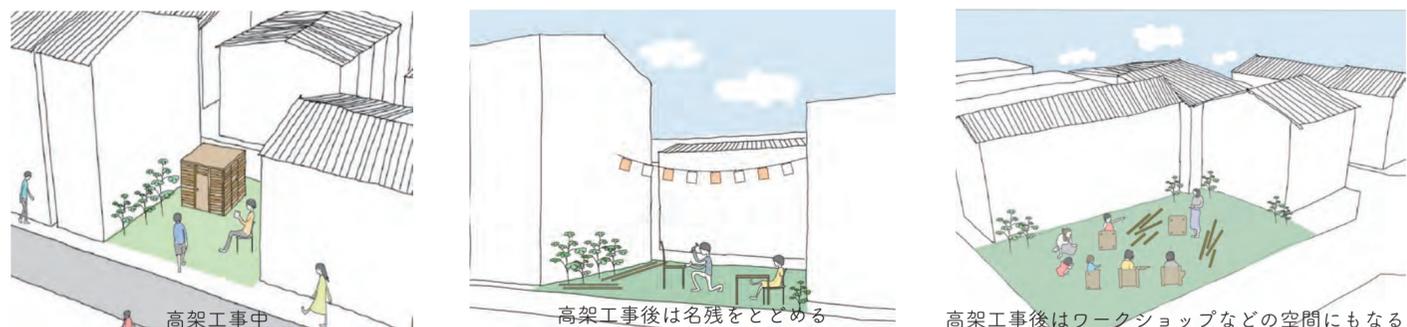


エリア⑤は赤と緑で囲まれている敷地である。赤の敷地はは現在計画のため立ち入り禁止になっている。緑は空き地や駐車場である。cubeは高架工事前は赤の敷地に設置され、高架工事中は赤の敷地が使われるため緑の敷地に移動する。上の図に示すように、これを移動①とする。高架工事後は高架下に移動する。これを移動②とする。移動①により地域に分散するため、cube制作に関わっていない人が、居場所の存在を知るきっかけになり得る。移動①と移動②により時間が経過していくと共にcubeが地域内を移動する。高架工事後は分散したcubeが高架下の空間に配置されるのだが、移動①があることで地域住民にとってcubeが親しみやすいものになり、徐々に愛着のある居場所になっていく。

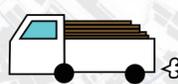
08 cube制作工程とそれぞれのエリアの高架化工事のタイミングについて

山林から間伐材を伐採する。生木のままでは変形してしまうため乾燥させる必要がある。乾燥させた後、簡易的な製材機を用いて製材・加工を行う。cube制作の部材が揃ったら組み立てと設置を行う。cube制作の1例を図1に示す。工事高架前はエリア②で乾燥、製材・加工を行う。高架工事中はエリア⑤で組み立て設置を行う。移動のために分散し、高架工事後はエリア③で、再度組み立て設置を行う。製材・加工時にした廃材は各エリアにある工房でワークショップの時、市民の方が利用するFree木材、冬季はたき火などで利用される。

	cube 制作工程					
	山林	間伐材	乾燥期	製材・加工期	組み立て設置(1)	組み立て設置(2)
高架工事前			エリア② エリア⑤	エリア② エリア⑤	エリア② エリア⑤	エリア②
高架工事中			エリア②		エリア⑤	
高架工事後			エリア④	エリア④	エリア① エリア③ エリア④	エリア① エリア③ エリア④



10 地域に溢れる風景



←間伐材が山からトラックに積み込まれ運ばれる。移動のためにcubeは分解され運ばれる。



←製材・加工で出た廃材をモノを制作するため運ぶ。



←地域の居場所を住民らで協力して自づつ作る。



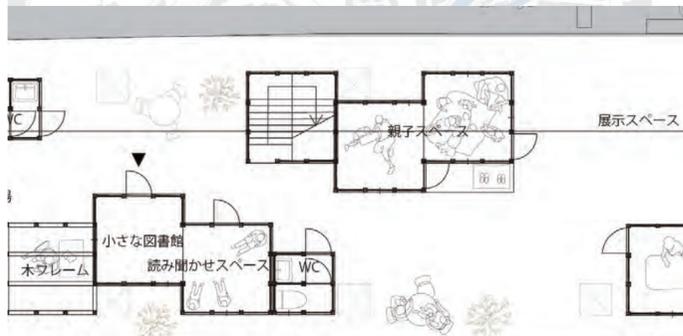
←製材・加工で出た廃材をモノを制作する。



←高架工事中は、現在の空き地や駐車場に地域の居場所 (cube) が移動し設置される。cubeの存在を知り、親しみを持ってもらうきっかけになる。

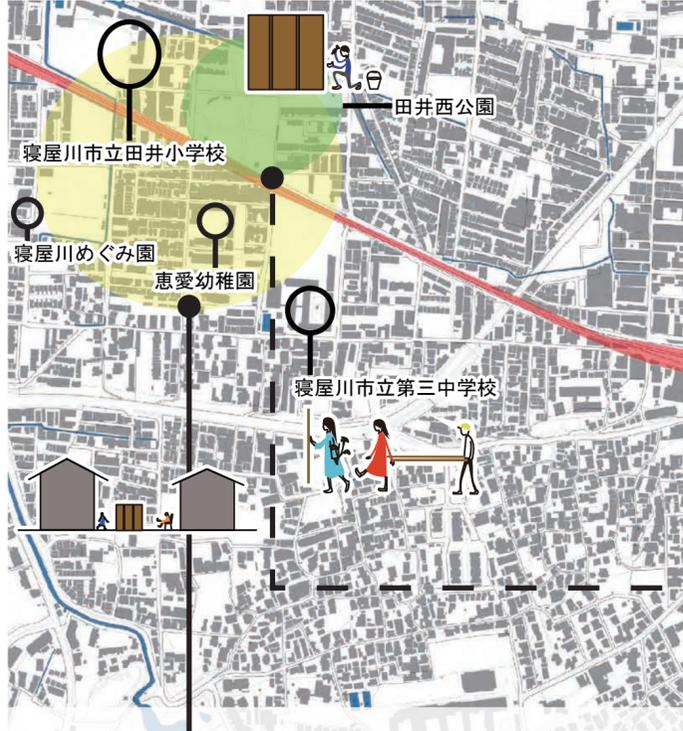


←廃材で制作されたものが地域にあふれる。



エリア①：親子・児童・生徒エリア

東側の田井町には中学校、幼稚園があり西側の田井西町には小学校がある。東西に分断された親子、児童、生徒をつなげるエリアである。



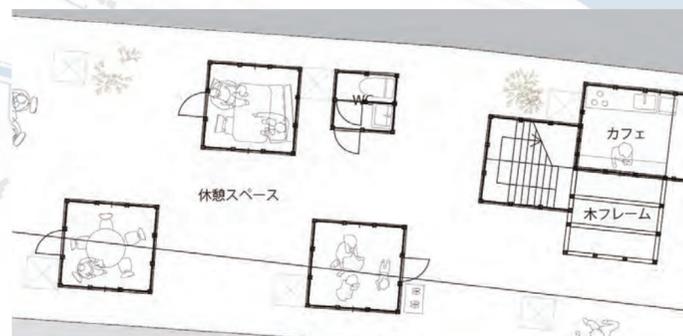
エリア②：制作エリア

高架下に隣接する4つの公園である。高架工事前、高架工事中に地域住民の方が集まり、ここで地域の居場所 (cube) を建築していく。また、端材などを利用しテーブルや椅子、木材のコースターなど住民が木材を使用するクリエイティブなエリアである



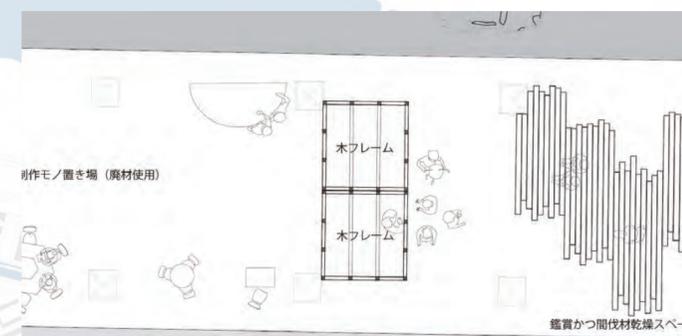
エリア⑤：エリア①②③④周辺

高架工事前、高架工事中にcubeを設置する。このエリアがあることでcubeが域に散らばり、存在を知ってもらうきっかけになる。



エリア③：多世代交流エリア

東側の北中振3丁目には老人福祉センターと公園があり、西側の北中振2丁目にはさだ生涯学習センター (さだ図書館) がある。東西に分かれた様々な年代の方を繋ぐためのエリアである。



エリア④：広場・間伐材乾燥エリア

高架工事後の間伐材の乾燥、製材・加工を行うエリアである。木材の乾燥期は積みを行い、乾燥期も空間として利用される。乾燥出来次第、cube制作に利用されるため時間によって空間が変化していく。



エリア①

鉄道高架下の周辺の計画のために買い取られた土地も東西に分かれている親子・児童・生徒を繋げるために利用される。アプローチしやすいように木フレームを設ける。



エリア③

鉄道の高架下に歩道が接している。高架下に住民が引き込まれるような建物配置になっている。東西に分かれている園児～高齢者の方が集まる事で繋がる地域の居場所



エリア④

山林から運ばれた間伐材 (生木) を乾燥させている。積み重ねられた空間で映像観賞や舞台として利用される。乾燥後は利用されていくため時間によって空間が変化していく。

山林
大阪府の間伐材を使用する。間伐材の現在の利用量は20%程である。

